

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	岩澤直子 ( いわさわなおこ )
所属・資格 (※学生の場合は課程・学年を記載)	人間科学研究科博士後期課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2021 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 47 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	岩澤直子、井上和哉、大月友
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	小学校スクールカウンセラーを対象とした行動コンサルテーションに関するスキル獲得トレーニング
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p><b>【発表の概要】</b></p> <p>本研究は、2 名のスクールカウンセラーを対象に行動コンサルテーションに関するスキル獲得トレーニングを実施し、実際のスクールカウンセラー活動場面における般化についても検証することを目的とした。評価方法は、参加者がロールプレイ中に行動コンサルテーションに必要な情報 (行動コンサルテーションに関するスキルリスト) を聞き取ることを標的行動として生起数を評価した。トレーニングは、「講義」、「パフォーマンスフィードバック」、「セルフモニタリングとフィードバック」を実施し、それぞれ実施後にロールプレイを行った。結果は、2 名とも生起率が向上した。Tau-U による分析では、事前よりもトレーニングにおいて生起率が増加したことを示す結果が有意傾向で認められ、標的行動に対するトレーニングの効果を示したと考えられる。トレーニング終了後、実際のスクールカウンセラー活動場面において行動コンサルテーションを実施した回数は、3 回 (参加者 1) と 2 回 (参加者 2) であった。回ごとに行動コンサルテーションに関するスキルリストに自己チェックをしてもらった結果、相談内容によって生起率と項目にばらつきが見られた。コンサルテーションはクライエントである児童の問題解決だけでなく、コンサルティである教師の問題解決能力を高めるためにも行われるため、実際のスクールカウンセラー活動場面では、行動コンサルテーションに関するスキルリストに沿って聞き取るだけでなく、聞き取りながら問題行動について理解していくと同時に教師の状態やニーズを把握し、それに合わせて、より重要となる情報から得ていく必要があると考えられる。</p> <p><b>【成果】</b></p> <p>スクールカウンセラーが行動理論に関する知識と技術を身につけることで行動コンサルテーションという形で教師とともに適切な介入方法を立案することができ、それによって児童の行動変容が期待されるため、本研究のようなトレーニングを実施していくことは教育現場においては重要であると考えられる。</p>	